

列車内映像情報システムの インタフェースデザイン

金子達史*
朴 信映**
木村淳一*

Interface Design of Visual Information System for the Train

Tatsuji Kaneko, Shinyoung Park, Junichi Kimura

要 旨

列車内では、行先案内や到着案内、また、事故・遅延等の運行情報を乗客に提供するため、いくつかの情報メディアが導入されている。列車内映像情報システム“トレインビジョン”の導入によって、従来のアナウンスによる聴覚情報に加え、表示装置による視覚情報として新たな情報メディアが採り入れられた。

しかし、情報メディアが導入されただけでは、“情報提供”が実現できたことにはならない。すべての乗客に分かりやすい情報提供を実現するためには“インタフェースデザイン”が重要である。

トレインビジョンにおけるインタフェースデザインでは、

見やすい設置位置等による表示装置の視認性と、乗客にとって分かりやすいコンテンツの視認性、列車走行状況に応じた時系列的な情報提供に配慮した総合的な開発を実施した。さらに、この開発では個々の路線に最適な情報提供を追求していくために、導入される車両や路線ごとに異なる条件、性格、イメージ等も考慮した。

開発したトレインビジョンのインタフェースデザインは、2002年4月に国内初の導入事例となったJR東日本の山手線231系トレインビジョンに適用した。その後、コンテンツを再検討、再構築し、2008年4月には最新の導入事例である西武鉄道30000系トレインビジョンへ展開している。



トレインビジョンにおけるインタフェースデザイン

見やすい設置位置等による表示装置の視認性検討、乗客にとって分かりやすいコンテンツの視認性検討、列車走行状況に応じた時系列的な情報提供の検討など総合的なインタフェースデザイン開発が必要である。